皆様と思川開発事業を結ぶネットワーク　　2009年9月30日　第３１号

河川の連携・地域をつなぐ明日へ

思川だより

独立行政法人水資源機構　思川開発建設所

夏期学外実習生の受入

水資源機構では、学生が一定期間企業等の中で実習生として働き、自分の将来に関連のある就労体験を行えるインターンシップ制度を行っています。
本年も思川開発建設所では二人の学生（山崎佑太君（北見工業大学土木開発工学科3年）、井上達也君（宇都宮大学建設学科建設工学コース3年））を実習生として受入れました。
当事業に関する就労を通じて、大学で勉強したことが活かされたと同時に当事業に対する理解や関心を深めていただいたようです。

環境巡視を行う山崎君

実習の成果を発表する井上君

旧梶又小学校取り壊しのお知らせ

旧梶又小学校は、平成21年内を目処に取り壊すことに致しました。
梶又小学校は、明治17年に上南摩学校梶又分舎が設立されて以来、児童の教育と共に、地域交流の場として、上南摩の人々に親しまれてきましたが、南摩ダムの建設に伴い、平成16年3月30日に閉校となった小学校です。

工事の進捗状況

現在の工事の進捗状況についてお知らせします。

ダム本体準備工関係

仮排水路トンネル及び放流管敷設トンネル工事

仮排水路トンネルは延長807mのうち約170mを掘削し、放流管敷設トンネルは延長606mのうち約80mを掘削しています。

付替県道工事関係

付替県道4号トンネル工事

付替県道4号トンネル工事（延長576m）は、トンネルの入り口の施工に着手しました。

現県・市道の拡幅・改良工事関係

場内工事用道路2号線1工区工事

場内工事用道路2号線は8つの工事区間のうち、2つの工区が完成し、残りの工区については、来年夏ごろの完成にむけて工事が進められています。

大芦川取水放流工工事用橋梁上部工工事

橋の床部分を施工し、工事は終盤に入りました。

編集後記

朝晩は冷え込むようになり、はっきり秋が感じられるようになりました。季節の変わり目、皆様も風邪などひかれませんよう、ご注意下さい。

人事異動

九月一日付で異動のありました職員を紹介します。

◆転入者◆

・機械課茶古規（新規採用）

編集・発行所

水がささえる豊かな社会
独立行政法人
水資源機構

独立行政法人 水資源機構
思川開発建設所
〒322-0305　栃木県鹿沼市口粟野839-2
Tel(0289)85-1110　Fax(0289)85-1211
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html

安全対策工事関係

黒川導水路工事の資機材等運搬に伴う歩行者の安全対策として、水路を利用した約1,100mの歩道工事です。

上板荷安全通路

下板荷安全通路

思川開発事業暴排協議会が発足

6月29日に佐藤信鹿沼市長をはじめ鹿沼警察署長、鹿沼土木事務所長などを顧問とした思川開発事業関連企業等暴力団等排除対策協議会（略称：思川開発事業暴排協議会）の設立総会を開催しました。

設立総会には、機構職員をはじめ現在当建設所の工事等を請け負っている企業23社から約100名の関係者が出席し、入会の意思表示がなされました。

思川開発事業は現在、トンネル工事などが本格化しており、大規模工事等を狙って不当介入する暴力団等の反社会的勢力を排除する決意を発注者及び受注者の双方が確認しました。

佐藤信鹿沼市長のご挨拶

設立総会の様子

『不当要求断固拒否』の垂れ幕

環境保全の取組みについて

思川開発建設所では、建設中・完成後にかかわらず、南摩ダム等の建設が周辺に与える影響を軽減するために様々な対策を行っております。今回は、思川開発建設所の環境への取り組みを紹介します。

事業による影響を把握するためには、その影響のない状態を予め調べておく必要があります。そのため、昭和53年から水質、昭和55年から動植物などの調査を実施しています。

工事により生活環境へ与える影響の予測として、例えば、トラックが通行する時に発生するほこり（粉塵）、騒音などが法律などで設けられた規制値を超えることが予測された箇所には、防音壁、粉塵防止のための散水を行うなど環境保全に努めています。（写真1、2）

また、自然環境へ与える影響も予測しており、例えば、事業実施区域内で生息が確認されているオオタカの繁殖期には、巣の近くへの立ち入り禁止措置を実施しました。

更に、将来ダムが完成すると大きな貯水池が出現するなど、環境の変化が生じます。それによる影響を予測し、影響を受けると考えられる動植物については、移植などの保全対策を実施しています（植物の環境保全対策については、前号で紹介しました。）。

このほか、工事関係者を含めた「環境保全協議会」を毎月開催したり、主として職員を対象とした「環境学習会」を必要に応じて開催するなど、環境に対する意識の向上にも努めています。（写真3）

散水車による水まき

防音壁

環境保全協議会でオオタカへの配慮事項を説明する環境課長

以上のように思川開発建設所では、豊かな生態系を維持できるよう様々な取り組みを行っています。

思川開発建設所では、これまでに実施してきた環境調査の結果を再整理し、事業の実施に伴う影響予測・評価・保全対策などをとりまとめた「思川開発事業における環境保全の取り組み」を公表しております。

詳しい内容は思川開発建設所のホームページをご覧下さい。